



地域における孤独・孤立対策に関する NPO等の取組事例集

内閣府孤独・孤立対策推進室編

本事例集は、株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所「令和6年度地域における孤独・孤立対策に関するNPO等の取組モデル調査研究業務調査報告書」を基に編集しています。

はじめに

- 社会構造の変化により、家族や地域、職場における人と人との「つながり」の希薄化が指摘されている中、本事例集は、孤独・孤立の予防や早期対応に資する日常生活環境での緩やかなつながりや居場所づくりに取り組むNPO等の活動を紹介するものです。
- 孤独・孤立対策に取り組むNPO等同士が、また、地方公共団体や地域の多様な関係者が相互に連携・協働し、地域のネットワークを築いていくことが期待されます。
- 何より、孤独・孤立の状態になっても頼ることのできる人と人との「つながり」、つながりの場となる「居場所」があることを実感できる、本事例集がその一助となれば幸いです。

内閣府孤独・孤立対策推進室



*本事例集に掲載している取組の種類と対象は、内閣府委託事業「令和6年度地域における孤独・孤立対策に関するNPO等の取組モデル調査」における団体の取組を分類したものであり、孤独・孤立対策の全てを網羅したものではありません。

*各団体のページにおいて、主となる取組の種類に★印(1つ)を、従となる取組の種類がある場合は☆印(複数可)を、それぞれ付しています。

また、取組の主となる対象に★印(1つ)を、従となる対象がある場合は☆印(複数可)を、それぞれ付しています。

*各団体のページについて、文章表現の統一化等は最小限にとどめています。

*本事例集は、原則令和7年3月現在の情報を基に編集しています。

取組の種類と対象

1.つながりの場づくり	
交流の場の提供	32
居場所づくり	17
食を通じたつながり	1
働くことを通じたつながり	7



2.見守り・支援体制の構築	
地域の包括的見守り体制の構築	2
アウトリーチ型支援の推進	3

3.情報提供・相談支援	
ワンストップ相談窓口の設置	3
支援情報のポータルサイト構築	1
情報発信の充実	1



4.地域課題解決型の取組	
買い物支援や移動支援サービスの提供	1
空き家を活用した地域交流拠点の整備	2



5.NPO等の活動支援・連携強化	
地域のNPO等への支援	4
官民連携プラットフォームの構築	3

対象						
多世代	21	こども・若者	16	中高年者	2	高齢者
障害者	1	外国人	2	被災者	2	犯罪をした者等
子育て世帯	3	ひとり親世帯	1			
不登校の児童生徒	3	ひきこもりの状態にある人	7	生活困窮状態の人	6	

上記項目ごとの数字は、各項目について、「主となる取組の種類である」又は「主となる対象である」としている団体の数を示しています。

目次

番号	団体名	取組地域	頁
01	札幌メンズ・シェッド ポッケコタン	北海道	1
02	特定非営利活動法人 くるくるネット	北海道	3
03	特定非営利活動法人 みなと計画	北海道	5
04	特定非営利活動法人 陸前高田まちづくり 協働センター	岩手県	7
05	一般社団法人 イシノマキ・ファーム	宮城県	9
06	一般社団法人 石巻じかれん	宮城県	11
07	特定非営利活動法人 まなびのたねネットワーク	宮城県	13
08	NPO法人 キンダーフォーラム	宮城県	15
09	一般社団法人 WATALIS	宮城県	17
10	筑波大生による、みんなの食堂（つくしょく）	茨城県	19
11	特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり市民工房	栃木県	21
12	特定非営利活動法人 じゃんけんぽん	群馬県	23
13	一般社団法人 オープンコミュニティおいでよハウス	埼玉県	25
14	NPO法人 クラブしつきーず	埼玉県	27
15	特定非営利活動法人 KOMPOSITION	千葉県	29
16	社会福祉法人 九十九里ホーム	千葉県	31
17	一般社団法人 青少年を守る父母の連絡協議会	東京都	33
18	認定特定非営利活動法人 キッズドア	東京都	35
19	一般社団法人 Arts Alive	東京都	37
20	特定非営利活動法人 サンカクシャ	東京都	39
21	RMJ	東京都	41
22	一般社団法人 フードバンク八王子	東京都	43
23	こどもと大人の地域活動「たのつく」	東京都	45
24	一般社団法人 あけぼのインクルージョン	神奈川県	47
25	特定非営利活動法人 教育支援協会南関東	神奈川県	49
26	NPO法人 街カフェ大倉山ミエル	神奈川県	51
27	特定非営利活動法人 リンクトウミヤンマー	神奈川県等	53
28	NPO法人 地域で子どもを育む会	神奈川県	55
29	NPO法人 クロスフィールズ	石川県	57
30	NPO法人 場作りネット	長野県	59
31	認定特定非営利活動法人 人と動物の共生センター	岐阜県	61
32	特定非営利活動法人 かみああと	岐阜県	63
33	特定非営利活動法人 ささしまサポートセンター	愛知県	65
34	一般社団法人 Pay for World 屋号 「えがおの駄菓子屋」	愛知県	67
35	特定非営利活動法人 しんしろドリーム莊	愛知県等	69
36	特定非営利活動法人 わんず	三重県	71
37	一般社団法人 ZERO loneliness	滋賀県	73
38	認定特定非営利活動法人 つどい	滋賀県	75
39	特定非営利活動法人 滋賀県社会就労事業振興センター	滋賀県	77
40	社会福祉法人 光養会	滋賀県	79

番号	団体名	取組地域	頁
41	特定非営利活動法人 immi lab	滋賀県	81
42	一般社団法人 京都わかくさねっと	京都府	83
43	一般社団法人 チームパッション	京都府	85
44	一般社団法人 Shien	京都府	87
45	一般社団法人 NIMO ALCAMO	大阪府等	89
46	NPO法人 SKY	大阪府	91
47	一般財団法人 ヒューマンライツ協会	大阪府	93
48	認定特定非営利活動法人 釜ヶ崎支援機構	大阪府	95
49	ハレトケの会	大阪府	97
50	一般社団法人 タウンスペースWAKWAK	大阪府	99
51	一般社団法人ケアと暮らしの編集社	兵庫県	101
52	特定非営利活動法人 但馬を結んで育つ会	兵庫県	103
53	社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会	鳥取県	105
54	特定非営利活動法人 地域共生とっとり	鳥取県	107
55	鳥取医療生活協同組合	鳥取県	109
56	特定非営利活動法人 ピアサポートつむぎ	鳥取県	111
57	一般社団法人 SGSG	岡山県	113
58	一般社団法人 ジンジャー・エール	岡山県	115
59	NPO法人 風の家	広島県	117
60	一般社団法人 UMEプロジェクト	広島県	119
61	一般社団法人 徳島県就業支援機構	徳島県	121
62	特定非営利活動法人 ニュースタート事務局	徳島県等	123
63	一般社団法人 hito.toco	香川県	125
64	一般社団法人 小豆島子ども・若者支援機構	香川県	127
65	特定非営利活動法人 くじら	愛媛県	129
66	一般社団法人 ハンズオン	高知県	131
67	NPO法人 抱樸	福岡県	133
68	特定非営利活動法人 あいむ	福岡県	135
69	一般社団法人 えふ	佐賀県	137
70	特定非営利活動法人 くまもと災害ボランティア 団体ネットワーク	熊本県	139
71	HAPPY PARK プロジェクト	熊本県	141
72	NPO法人 子育て応援ワクワクピース	大分県	143
73	特定非営利活動法人 カーサグランデ	宮崎県	145
74	特定非営利活動法人 フェリーチェ	宮崎県	147
75	特定非営利活動法人 かごしまヤングケアラー 支援ネットワーク	鹿児島県	149
76	社会福祉法人 おきなわ長寿会	沖縄県	151
77	特定非営利活動法人 まくとうー	沖縄県	153

全体マッピング

対象	1 つながりの場づくり		
取組の種類			
多世代	<p>02 特定非営利活動法人 くるくるネット</p> <p>11 特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり市民工房</p> <p>30 NPO法人 場作りネット</p> <p>58 一般社団法人 ジンジャー・エール</p> <p>73 特定非営利活動法人 カーサグランデ</p>	<p>04 特定非営利活動法人 陸前高田まちづくり協働センター</p> <p>14 NPO法人 クラブしきーず</p> <p>32 特定非営利活動法人 かみああと</p> <p>61 一般社団法人 徳島県就業支援機構</p> <p>75 特定非営利活動法人 かごしま ヤングケアラー支援ネットワーク</p>	<p>10 筑波大生による、 みんなの食堂(つくしょく)</p> <p>28 NPO法人 地域で子どもを育む会</p> <p>34 一般社団法人 Pay for World 屋号「えがおの駄菓子屋」</p> <p>64 一般社団法人 小豆島子ども・若者支援機構</p>
こども・若者	<p>03 特定非営利活動法人 みなと計画</p> <p>23 こどもと大人の地域活動 「たのつく」</p> <p>47 一般財団法人 ヒューマンライツ協会</p> <p>60 一般社団法人 UMEプロジェクト</p> <p>69 一般社団法人 えふ、</p>	<p>08 NPO法人 キンダーフォーラム</p> <p>42 一般社団法人 京都わかくさねっと</p> <p>56 特定非営利活動法人 ピアサポートつむぎ</p> <p>66 一般社団法人 ハンズオン</p> <p>74 特定非営利活動法人 フェリーチェ</p>	<p>20 特定非営利活動法人 サンカクシャ</p> <p>45 一般社団法人 NIMO ALCAMO</p> <p>57 一般社団法人 SGSG</p> <p>68 特定非営利活動法人 あいむ</p>
中高年者	<p>01 札幌メンズ・シェッド ポッケコタン</p>	<p>46 NPO法人 SKY</p>	
高齢者	<p>09 一般社団法人 WATALIS</p> <p>29 NPO法人 クロスフィールズ</p> <p>52 特定非営利活動法人 但馬を結んで育つ会</p>	<p>16 社会福祉法人 九十九里ホーム</p> <p>35 特定非営利活動法人 しんしろドリーム莊</p> <p>55 鳥取医療生活協同組合</p>	<p>18 認定特定非営利活動法人 キッズドア</p> <p>44 一般社団法人 Shien</p> <p>65 特定非営利活動法人 くじら</p>
障害者	<p>19 一般社団法人 Arts Alive</p>		
外国人	<p>41 特定非営利活動法人 immi lab</p>		
被災者	<p>06 一般社団法人 石巻じれん</p>		
犯罪をした者等	<p>24 一般社団法人 あけぼのインクルージョン</p>	<p>59 NPO法人 風の家</p>	
子育て世帯	<p>26 NPO法人 街カフェ大倉山ミエル</p>	<p>36 特定非営利活動法人 わんず</p>	
ひとり親世帯	<p>72 NPO法人 子育て応援ワクワクピース</p>		
不登校の児童生徒	<p>07 特定非営利活動法人 まなびのたねネットワーク</p>	<p>15 特定非営利活動法人 KOMPOSITION</p>	
ひきこもりの 状態にある人	<p>05 一般社団法人 イシノマキ・ファーム</p> <p>53 社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会</p>	<p>38 認定特定非営利活動法人 つどい</p> <p>62 特定非営利活動法人 ニュースタート事務局</p>	<p>39 特定非営利活動法人 滋賀県社会就労事業振興センター</p> <p>63 一般社団法人 hito.toco</p>
生活困窮状態の人	<p>33 特定非営利活動法人 ささしまサポートセンター</p>	<p>48 認定特定非営利活動法人 釜ヶ崎支援機構</p>	

2 見守り・支援体制の構築	3 情報提供・相談支援	4 地域課題解決型の取組	5 NPO等の活動支援・連携強化
	<p>12 特定非営利活動法人 じゃんけんぽん</p> <p>51 一般社団法人 ケアと暮らしの編集社</p> <p>71 HAPPY PARK プロジェクト</p>	<p>37 一般社団法人 ZERO loneliness</p> <p>43 一般社団法人 チームパッション</p>	<p>67 NPO法人 抱樸</p> <p>77 特定非営利活動法人 まくとうー</p>
17 一般社団法人 青少年を 守る父母の連絡協議会			54 特定非営利活動法人 地域共生とっとり
			
		40 社会福祉法人 光養会	76 社会福祉法人 おきなわ長寿会
	27 特定非営利活動法人 リンクトウミヤンマー		
			70 特定非営利活動法人 くまもと災害 ボランティア団体ネットワーク
	21 RMJ		
			25 特定非営利活動法人 教育支援協会南関東
13 一般社団法人 オープン コミュニティおいでよハウス			
31 認定特定非営利活動法人 人と動物の共生センター			
49 ハレトケの会			
50 一般社団法人 タウンスペースWAKWAK			22 一般社団法人 フードバンク八王子

団体名：札幌メンズ・シェッド ポッケコタン

取組地域：北海道 札幌市

取組名：“メンズ・シェッド”によるシニア男性の孤独・孤立の予防

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★ 交流の場の提供		☆ 居場所づくり	
☆ 食を通じたつながり		働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供	☆	空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

多世代	こども・若者	★ 中高年者	☆ 高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪した者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	「リタイア後、男性が企業人から地域人へ移行するため、自分にあった移行活動ができる」を模索するプラットフォームづくりを目的としている。既存の組織とは異なる拠点を作り出し、孤独・孤立に悩む高齢者を取り残さない、人と人との「つながり」が生まれ支え合う地域の実現に向けて活動している。
対象とした人	50～80歳代で、シェッド活動に参加が可能な男性 家庭や環境に不満があるわけではないものの、退職後他人と話す機会が減ることに漠然と不安を抱いている方や、退職後の生きがいや、やりがいを見つけたい方
内容	皆がやりたいことを考え持ち寄り、実現させる中で仲間をつくり、ともに日々の生活の一部になるようにシェッド活動（居場所の立ち上げ・運営に関する活動）を促進した。0次募集（活動自体を自分たちで考える）という考え方を基本に、皆で考え立ち上げる過程を重視した。 2025年2月10日現在で8グループが組織され、活動を展開した。 1.音楽グループ、2.登山・ウォーキンググループ、3.メンズシェフグループ、4.DIY・基地づくりグループ、5.菜園グループ、6.頭の体操グループ、7.ゴルフグループ、8.釣りグループ

(2) 取組の成果

連携した団体	西区社会福祉協議会（既存組織への働きかけ）、西野まちづくりセンター（設立準備委員会議室提供）、介護予防センター（会報誌に活動内容を掲載）、平和第三町内会（空き家の共同利用）、北海道大学大学院保健科学院（科学的検証の実施、海外メンズ・シェッドとの仲立ち）等
対象とした人とつながるために行った工夫	会員が各グループの活動に横断的に参加するよう努めた。全員向けの LINE グループを立ち上げ、活動状況報告や自由な意見交換の場を設けた。所属グループがまだ決まっていない会員に対しては、疎外感を抱かせないよう活動報告を LINE で頻繁に発信した。さらに、LINE では伝えきれない情報もあることから、本年度から会報誌（不定期）を郵送することとした。
定性的な成果 定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> 過去の職場や地域、年齢の枠を超えて新たな交友関係が生まれ、会員間の密なコミュニケーションがなされた。 企画立案、運営、活動実施、反省に基づく新たな活動展開等の各ステップに多くの会員が積極的に関わった。このような「受け身」でない活動はシェッド活動の大きな特長であり、孤独・孤立の改善に対してより高い効果が発揮できたと思われる。 スマホ等による連絡を通じて、最新の IT 技術利用に対するハードルが下がった。要望が高かったスマホ講習会も、メンバーが指導者となり開催できた。 基地は地域町内会（平和第三町内会）との共同利用なので、住民との接点が増え、顔見知りができた。 会員の口コミや紹介、マスコミに取り上げられたことで、活動拠点がある地区以外からの入会もあった。9月以降には 6 人の入会があり、さらに 2025 年 4 月以降、6 人が入会希望している。 会員へのアンケートにより約 65% が家から出る機会が増え、87% が新たな知人・友人ことができたことも分かった。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	札幌メンズ・シェッド ポッケコタン
代表者	松家 洋一
設立年月日	2023 年 6 月
スタッフ数	常勤スタッフなし（役員 10 人、監査役 2 人）
団体住所	北海道札幌市西区西野 8 条 10 丁目 7-6
ウェブサイト	https://pokke-kotan.jimdosite.com/
メッセージ	定年したら是非やってみたい事を実現させるためには我々のような団体を立ち上げピンピンコロリを目指すのも悪くないと思います。病院に行かずいつまでも健康で長生きできることが高齢者の一番身近な社会貢献ではないでしょうか。

団体名：特定非営利活動法人 くるくるネット

取組地域：北海道 室蘭市

取組名：空きスペースを活用した多世代交流のコミュニティーカフェの取組

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★ 交流の場の提供	☆ 居場所づくり		
食を通じたつながり	働くことを通じたつながり		
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置	支援情報のポータルサイト構築		
情報発信の充実	SNS 等を活用した相談支援		
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供	空き家等を活用した地域交流拠点の整備		
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援	官民連携プラットフォームの構築		

取組の対象

★ 多世代	☆ こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	☆ ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	こども食堂の延長線上にあるコミュニティーカフェを作り、活動の拠点を用意した。気軽に人々がつながる場を作ることで、孤独や孤立を感じる人々が少しづつ社会と関われるよう支援することを目的とした。
対象とした人	地域の住民：地域とのつながりが少ない方
内容	①地域住民に寄り添う「居場所」の提供：孤独や孤立を感じる地域住民が気軽に立ち寄れる「居場所」として、コミュニティーカフェやレンタルスペースを運営した。週末はスタッフが常駐し、利用者同士の交流や心地よい時間を提供することで、地域のつながりを深めた。 ②無料で利用可能なレンタルスペースの活用：平日は、個人やグループがイベントやミーティングに利用できるレンタルスペースを無料で提供した。 ③幅広い世代への支援：カフェタイムや月に1回当団体が開催する「クルハウスまつり」を通じて、世代間交流を促進した。また、こどもに対しては、こども食堂も運営し、食事の提供を通じて安心感や温かさを届けた。

(2) 取組の成果

連携した団体	室蘭市社会福祉協議会のネットワークを活用し、孤独や孤立に悩む人々を紹介してもらい、居場所を課題解決に役立てた。「クルハウスまつり」は、学校や自治会と協力して実施している。こういった機会を活用し地域連携をはかった。
対象とした人とつながるために行った工夫	チラシを自治会の回覧板や地域の学校に5,000部配布することで、地域住民に本事業の取組と当団体の存在を広く知らせた。インターネット（SNS、ホームページ）を活用し、若年層や外部の支援者とも接点を持つことができるようとした。特にSNSでは、活動報告やイベント情報を定期的に発信し、地域住民の関心を引いた。初心者向けの紹介・サポートとして初めて参加する方には、スタッフが丁寧に案内し、すぐに居心地良く感じられるよう配慮した。
定性的な成果	・取組の実施回数：月8回の定期活動、そのうち1回はクルハウスまつりを実施した。
定量的な成果	・担い手の数：スタッフ1人が活動に関与した。 ・参加者の数：累計約180人が参加し、地域住民や子どもたちが多く利用した。 ・地域住民との交流の場の回数：事業期間中6回の交流イベントを開催した。 ・連携先の数：学校9校との連携を確立し、地域の教育機関との協働を進めた。 ・解決された課題の件数：孤独や孤立の解消を目指し、事業期間中3件の生活課題に対応し解決に向けた第1歩が示された。 ・定性的成果：「コーヒーがおいしかった」「楽しい時間を過ごせた」「地域にこんな場所があるとうれしい」といったポジティブな声が多く集まった。特に「子育ての悩みを話すことができた」「集中して活動できた」といったコメントから、参加者が孤立感を軽減し、安心して過ごせる場として機能していることが確認された。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 くるくるネット
代表者	鳥山 晃
設立年月日	2004年5月21日
スタッフ数	10人
団体住所	室蘭市知利別町2-22-31
ウェブサイト	http://www.kuru2.net/
メッセージ	地域ごとに異なる課題がある中で、私たちの経験や知見が少しでも役に立つことを願っています。これからも、支援の輪を広げ、誰もが「ここにいていい」と思える社会づくりに尽力していきます。私たちは、地域の子どもや高齢者、一人ひとりの声に耳を傾け、共に成長しながら活動を続けていきます。

団体名：特定非営利活動法人 みなと計画

取組地域：北海道 江別市

取組名：推し活は若者の孤立を防げるか？ 推しからセーフティネットへ

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★ 交流の場の提供		☆ 居場所づくり	
食を通じたつながり		働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
☆ 地域の包括的見守り体制の構築		☆ アウトリー型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
☆ 情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援	☆	官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

多世代	★	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯		ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	多様な若者の興味を喚起させるために有効なのが、「推し」のように、若者が興味関心を持ちやすいテーマを切り口にすることである。そこで、暮らしの中で接する人や場所を接続ポイントとして押さえ、そこを入口に若者とつながり、関係を維持することで、社会的な孤立を防止するセーフティネットに発展させることを目的とした。
対象とした人	一見して孤立しているように見えない大多数の若者を対象とした。 何らかの制度的なサポートの対象となる人はもちろんではあるが、社会とのつながりが希薄な若者は、現在は問題がなくともちょっとした躊躇で社会から孤立してしまう「孤立予備軍」といえる。
内容	若者が日常的に出入りするような飲食店等を社会との接続ポイントとし、そのきつかけとして「推し活」に注目した。 主対象を中高生～大学生、20代前半の社会人に設定し、飲食店等、暮らしの延長に推し活動のスポット（OSHI PORTと命名）を設置して、若者とのつながりの間口を広げた。 さらに、制度的サポートを必要としたときにすぐにつなげられるような関連機関のネットワークの構築を行うことで、日常から非常時まで若者が社会と接続し続けられるようにした。

(2) 取組の成果

連携した団体	<ul style="list-style-type: none"> 市内の飲食店：OSHI PORT の設置協力をお願いした。福祉への関心から異業種連携につながった。
協力いただいた団体	<ul style="list-style-type: none"> 市内の福祉関連機関・団体：日常的に情報をやりとりできるツールがなかったが、本事業を通して関連団体の LINE グループを構築することができた。今後、官民連携を強めていけるよう取組を進める。
対象とした人とつながるために行った工夫	<ul style="list-style-type: none"> 若者の多様性への配慮：幅広い若者の興味関心に触れられるように、市内飲食店の店主、スタッフについても幅広い「推し」に対応できるように、OSHI PORT の分野の多様性を意識した。事業を進める中で、「同担拒否」と呼ばれる「推し活」ならではの思考があることが分かり、発信の仕方を重視した。 パンフレットの作成と配布：SNS だけでなくアナログによる発信も重要と考えた。パンフレットは若者に手にとってもらえるデザインにするため、デザイナーやイラストレーターと協働し作成した。パンフレットの設置個所は、従来の公共的施設に加え、若者の出入りが多い場所（映画館、書店、コンビニ等）も対象とした。
定性的な成果	<ul style="list-style-type: none"> OSHI PORT 設置：5か所 ※リリース後、新規で2か所から登録希望の申し出があった。
定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> パンフレット配布箇所：江別市内 20か所（若者が出入りする場所を中心として） ※さらに増やす 定性的成果：「若者と福祉的な相談機関とのいかんともし難い距離感が課題である」と感じていた社会福祉協議会担当者の賛同を得て、協議会名義で関連団体への協力要請を行えることになった。市内の若者支援に関わる団体も「推し活」に焦点を当てた本事業に賛同し、日常的な情報交換を可能とするネットワークへの参加を承諾した。また、これまで若者支援の枠組み内になかった飲食店が、共通する課題感を大小あれども実は持っていたことが分かった。そのため、単に推し活のスポットとしてだけではなく、この活動そのものへの理解を示してもらえた。さらに事業を通して、市内福祉関連機関や団体の担当者もまた孤立しがちであることがわかり、連携の検討につながった。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 みなと計画 (NPO 法人 みなと計画)
代表者	理事長 橋本 正彦
設立年月日	平成 30 年 3 月 13 日
スタッフ数	3 人
団体住所	〒069-0852 北海道江別市大麻東町 13 番地 48
ウェブサイト	https://www.minapla.com/
メッセージ	「推し活」で若者の孤独・孤立を予防しようという一見突拍子もない活動であったが、意外にも多くの関係者から理解が得られ、これをツールとして関連団体のネットワークの構築ができたのは想像以上の成果だった。さらに活動を進めつつ、今後同様の切り口で課題に取り組みたいと考える団体とも積極的に連携を図りたい。

団体名：特定非営利活動法人 陸前高田まちづくり協働センター

取組地域：岩手県 陸前高田市

取組名：災害公営住宅における市民交流プラザを活用した交流機会のコーディネート

取組の種類

1. つながりの場づくり		
	交流の場の提供	★ 居場所づくり
	食を通じたつながり	働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築		
	地域の包括的見守り体制の構築	アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援		
	ワンストップ相談窓口の設置	支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実	SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組		
	買い物支援や移動支援サービスの提供	☆ 空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化		
	地域の NPO 等への支援	官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

★ 多世代	☆ こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	☆ ひとり親世帯	☆ 単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	入居者同士の交流やつながりが減少し関係性の希薄化が課題となっている災害公営住宅において、市民交流プラザという拠点を活用して市内の NPO 等をつなぎ、多様な催し물을コーディネートすることで新しい人の動きをつくり、住民同士及び周辺地域住民との新たなつながりを生みだすことで、孤独・孤立リスクの低減を図る。
対象とした人	災害公営住宅に入居する住民（特に、コミュニティとのつながりが薄いと想定される「ひとり親（女性）」、「子育て中の大人」、「独居の高齢者」等）、及び周辺地域で暮らす住民を対象とした。
内容	陸前高田市内の大規模災害公営住宅 2 団地に設置されている「市民交流プラザ」を会場に、9 月～1 月までの間に交流の催しを月 1 回、各団地 5 回ずつ、計 10 回開催した。 交流の機会をつくり新たなつながりを生む・育むことを目的としていたため、参加のハードルが低い「趣味」を軸にし、新しい利用者を狙ってこれまで市民交流プラザで開催されたことがない催し物を中心に組み立てた。また、今年度が初めての取組であるため、どのような催し物にどのような人が参加するのかリサーチするため、子ども対象の回、子育て中のお母さん対象の回、高齢の女性対象の回等、毎回異なる属性を対象に設定して開催した。

(2) 取組の成果

連携した団体	<ul style="list-style-type: none"> 陸前高田市保健係の担当者とは取組の内容や進め方、プラザの使用、市広報や SNS を通じた催し物の周知等で連携した。
協力いただいた団体	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉協議会は市民交流プラザの午前中の時間の管理をしていたため、催し物の周知で連携した。
対象とした人とつながるために行った工夫	社会福祉協議会のコーディネーターやシルバー人材センターのスタッフと連携し、気になる人に催しへの参加を促してもらうことで場に参加してもらい、コンタクトがとれるようにした。日頃から接点のある社会福祉協議会や交流プラザのスタッフからの声掛けであるため、対象者の参加への心理的なハードルが下がり、安心感を高める効果があった。また、毎回内容の異なる催しとしたことで、特定の対象者が好む内容の回に誘うといったアプローチもできた。
定性的な成果 定量的な成果	<p>(定性的成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民交流プラザについて、これまで 50 代～80 代の人の利用が多かったが、取組内容により 10 代～40 代の若い世代も参加し交流する様子が見られた。入居者同士の新いつながりの創出に効果があった。 <p>(定量的成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組の実施回数：10 回（各団地 5 回ずつ）、担い手数：10 人 イベントへの参加者：102 人（うち、新規参加者：48 人、40 歳以下の参加者：21 人） 連携先の数：11 団体、関係者と連携した新たな取組（懐かしいおやつ作り、e スポーツを題材にした多世代交流イベント、子育て中のお母さんを対象にしたハンドマッサージ等）の数：10 件

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 陸前高田まちづくり協働センター
代表者	理事長 三浦 まり江
設立年月日	2006 年 3 月 18 日
スタッフ数	3 名
団体住所	岩手県陸前高田市高田町字荒町 104 番地 7 陸前高田市チャレンジショップ C-2
ウェブサイト	https://rtmachikyodo.jimdoweb.com/
メッセージ	人により居心地が良いと感じる居場所の内容や性質は異なりますが、様々な場があればそれだけ選択肢が広がり、当事者につながる社会資源も多様になります。それが地域や社会全体での孤独・孤立対策につながるものと思いますので、今後もそうした意識を持って資源のコーディネートに取り組んでいきたいと思います。

団体名：一般社団法人 イシノマキ・ファーム

取組地域：宮城県 石巻市

取組名：地域と生きづらさを抱えた若者を繋ぐ農村体験プログラム

取組の種類

1. つながりの場づくり			
	交流の場の提供		居場所づくり
	食を通じたつながり	★	働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

多世代	☆	こども・若者		中高年者	☆	高齢者		障害者		外国人		被災者		犯罪をした者等		LGBTQ
子育て世帯		ひとり親世帯		単身世帯		不登校の児童生徒	★	ひきこもりの状態にある人	☆	生活困窮状態の人		薬物依存等を有する人		支援者支援		

(1) 取組の内容

目的	対象者の方が、普段と違う生活環境に身を置き、非日常の体験することにより、日常で目を背けていたものに対して間接的に克服できるのではないかと考えた。自然環境下での生活。人目もあまりない、いても地元の高齢者等、話しやすい相手。農作業等、成果が目に見えることで、成功体験を経験。このような体験をすることで、「信頼できる大人がいる」、「自分もやればできるんだ」と思う変化が生まれることを想定した。
対象とした人	生きづらさを抱えた若者（働きたいけど働けない、学校に行きたいけない）
内容	農家を訪問し、インタビューを行う。実際に農作業体験をする等、自身で身体を動かして働く事を体験する。話を聞いて、農家の実体験を聞き、大変さや、やりがい等のリアルな言葉を聞く。 農村地域に宿泊し農作業を行うことで、生活リズムを整える。宿泊施設の立地環境が、夜は暗く、静かであるため、睡眠環境が整っている。日中身体を動かすことで、生活リズムが整いやすい。また、体を動かしていることで、空腹感を感じるようになる。地元の野菜を食べたり、参加者同士、調理スタッフ等とともに食事をとることで、アットホームさを体験し、他人や大人への信頼感を養う。

(2) 取組の成果

連携した団体	児童養護施設、保健師、特別支援学校、大学、地域の農家、就労移行支援事業所
協力いただいた団体	
対象とした人とつながるために行った工夫	<p>農村留学プログラムの4日目にインタビューをもとにディスカッションを行い、対象者によって内容をかえていた。</p> <p>プログラムの中で対象者がパソコンで成果物を作り、その完成品を本人に後日メールで送ることで、プログラム終了後にも連絡できるパイプを作った。</p> <p>支援学校とのつながりができる。もともと当団体は知的障害者、身体障害者は対象としていなかったが、農村留学プログラムのチラシ配布や行政・民間主催の協議会に出席して、広報活動中、支援学校の進路担当の方から連絡をいただき、話をする機会を設けた。生徒の中に一般就労を希望する生徒があり、プログラムの参加につながった。</p>
定性的な成果 定量的な成果	<p>5日間の宿泊プログラムの参加者で共通して見られたこととして、食事の量が増えたことが挙げられる。</p> <p>また、プログラム時間外にもお手伝い（加工作業等）をしたり、風呂掃除を代わる（スタッフがやっていたものを）等自主的に動く姿も見られた。</p> <p>食事を一緒に（スタッフや講師の方等と）取ることで、笑顔を見せたり、スタッフや講師と会話するようになった。</p> <p>コミュニティ農園：全6回開催 参加者延べ40人</p> <p>農村留学プログラム：全4回実施 参加者11人（定員16人）</p> <p>取組を行った地域では高齢化が進んでいるが、対象者の若者と地域の高齢者が共に農作業を行うことで会話が生まれ、地域の活性化にもつながった。</p>

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	一般社団法人 イシノマキ・ファーム
代表者	高橋 由佳
設立年月日	2016年8月2日
スタッフ数	6人
団体住所	宮城県石巻市北上町橋浦字行人前164番地
ウェブサイト	http://ishinomaki-farm.com
メッセージ	<p>今回事業を行うことで、今までの活動ではできなかつことを実現することができました。</p> <p>今後行おうとしている団体様へ、実際類似の活動をしているところが少くないですが、それだけ課題があるということです。似てはいるけど濃度や色合いは微妙に違いますので、是非取り組んでみてください。</p>

団体名：一般社団法人 石巻じちれん

取組地域：宮城県 石巻市

取組名：集まろう、話そう、心も身体も元気になれるコミュニティづくり事業

取組の種類

1. つながりの場づくり		
	交流の場の提供	☆ 居場所づくり
★	食を通じたつながり	働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築		
	地域の包括的見守り体制の構築	アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援		
	ワンストップ相談窓口の設置	支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実	SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組		
	買い物支援や移動支援サービスの提供	空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化		
	地域の NPO 等への支援	官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

☆ 多世代	☆ こども・若者	中高年者	☆ 高齢者	障害者	外国人	★ 被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	☆ 単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	震災による大規模集団移転で形成されたのぞみ野地区とあゆみ野地区は地縁が希薄である。本事業を通して、地域で見過ごされている孤立や孤独を抱える住民が安心して出てこられる場づくりや、地域の現状を把握し、自治組織と共にすることで、地域の活性化を狙う。
対象とした人	地域の高齢者（受益者として単身者）、地域のこども、地域活動に参加するきっかけの無かった住民、他者と関わりを持ちたい方や地域住民の役に立ちたいと考える住民
内容	地域では、一人で食事をとっているという声があり、「誰かと食事を食べる」「誰かと過ごせる場所」をコンセプトにみんなの食堂の取組を行った。また、料理を提供するに当たって、地域の住民に協力を仰ぎ、ともに場づくりを行った。 アプローチとしては住民へのヒアリングと声掛け、チラシによる広報を行い、参加者を募るとともに、料理が趣味の方等に声掛けと協力の依頼を行った。 また、介護予防運動の活動を行う団体や、こども支援を行う団体と連携して、多世代を巻き込むようなしきけや、心のケアの専門家と連携することで、安心できる場となるような場づくりを行った。

(2) 取組の成果

連携した団体	こども若者支援を行うNPOに対して、こどもを対象とした、夜バージョンのみんなの食堂の開催を提案した。その結果、当団体の担い手となっている住民と、そのNPOの支援対象であるこどもたちとの間に信頼関係が構築され、当団体の活動にもこどもたちが参画することにつながった。
対象とした人とつながるために行った工夫	孤独傾向がある単身高齢者で、サロン等の場が苦手な方等でも、共通する食をテーマとした。また、協力するボランティアと相談するなかで、特に単身高齢者ではなかなか自分で調理しないような揚げ物等を提供することで、食べることが楽しみになり、より来なくなる場になるのではないかと意見があり、メニュー設定等は毎回工夫した。 全戸へのチラシ配布とアンケート調査での訪問について、当初、状況の調査を目的とした訪問であったが、訪問をするなかで孤立を感じる住民と会話し、関係が構築され、活動に参加するようになる例があった。 こども等も参加しやすくなるように、まずはこどもだけに限った場をつくることで、関係構築を行った。徐々に、高齢者が集まる場にこども等も参加するようになった。
定性的な成果 定量的な成果	地域内で孤立を抱える住民や、誰かと過ごす場を欲する住民が参加できる場がつくられた。こども支援団体を通じて参加したこどもが、大人にまじり調理の担い手として参加するようになった。多世代が場を共有することが当たり前となり、またその場が支援者だけでなく住民とともにつくられることで、地域での支え合いの機運や、多世代が交流できるようになった。特に、この活動を通して知り合った方々が、地域内で出会った際にお話しするようになった。 心のケアの団体と連携したサロン参加者数：6回 47人 地区住民 1300世帯を対象としたアンケート回収世帯数：304世帯（内、訪問による直接回収 93世帯）

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	一般社団法人 石巻じちれん
代表者	増田 敬
設立年月日	2016年1月18日
スタッフ数	5人
団体住所	宮城県石巻市のでみ野四丁目23番地新蛇田第一集会所内
ウェブサイト	https://www.facebook.com/jichiren
メッセージ	昨今、地域の高齢化や人口流出、共働き世帯の増加、余暇活動の多様化等により、地域活動に人が集まらない、担い手不足は加速する一方だと思います。多様な地域で多様な活動が活性化することで、社会が明るくなっていく、自分らしく過ごせる地域が増えていければと思います。一緒にがんばりましょう。

団体名：特定非営利活動法人 まなびのたねネットワーク

取組地域：宮城県 石巻市

取組名：石巻地域の不登校中高生 応援ホッとスペースプロジェクト

取組の種類

1. つながりの場づくり		
	交流の場の提供	★ 居場所づくり
	食を通じたつながり	働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築		
	地域の包括的見守り体制の構築	アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援		
	ワンストップ相談窓口の設置	支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実	SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組		
	買い物支援や移動支援サービスの提供	空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化		
	地域の NPO 等への支援	官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

多世代	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	★ 不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	不登校となっている中高生一人ひとりが、社会で生きていくために必要な自活力を身につけることと、良好な関係づくりを目指す。特に日中に自宅で一人で過ごす女子中学生・高校生に対して、居場所「しゅろハウス」での体験や関わりを通して、彼女たちの日常と心境にプラスの変化をもたらしたいと考えて本事業を実施した。
対象とした人	不登校の（昼間に自宅で一人で過ごす）女子中学生・高校生
内容	居場所として活用している「しゅろハウス」という一軒家で、平日午後(12:00-17:00頃)、不登校の中学生・高校生を対象に、以下のことを目標に、食や学習などに関する体験活動を行った。 <ul style="list-style-type: none">ある食材を活用した料理を自分で作れるようになる。「食べる」楽しみ、「作る」楽しみ、「関わる」楽しみ、「生きる」喜びを感じるようになる。自分の希望する進路を模索し、進むことができる。ちょっとした「困った」や、「やりたい」を言える関係性ができる。

(2) 取組の成果

連携した団体 協力いただいた団体	石巻市学びサポートセンター（コイル）（石巻市内の不登校児童・生徒の学習支援機関）、特定非営利活動法人 TEDIC（石巻圏域子ども・若者総合相談センター運営法人）、NPO 親子相談室 KANGAROOM（自閉症親子を対象とした移動型支援を行う団体）、一般社団法人イシノマキ・ファーム（ソーシャル・ファームを理念に活動している団体）、Face the Fish（女川町で釣りの魅力を広めるために活動している若者団体）、OVER THE RAINBOW 代表 荒牧明楽様（福岡在住）、ゆるゆるぶりヨガ ヨガ講師 坂本真由美様（仙台在住）
対象とした人とつながるために行った工夫	居場所の利用にあたっては、一軒家という利点を活かして、「家」にいるようにリラックスしてもらうため、他機関や行政で実施されてきたような登録制や居場所利用のルール提示等は一切行わなかった。事前に保護者面談を行い、丁寧な情報共有や相談対応を行ったうえで、了解を得て、本人たちとの連絡手段として公式 LINE を活用した。また、保護者とも LINE グループを作成し、子どもの様子を写真で伝え、活動内容や気になること、連絡事項等、毎週欠かさず連絡した。関係性ができるまでは、とにかく「楽しい」「また来たい」と思ってもらえるように、こどもたち本人の「～したい」という希望を尊重した。
定性的な成果 定量的な成果	中学生は、最初は不登校状態の友達同士で LINE でのみコミュニケーションをとっていて、スタッフと言葉を交わすこと、スタッフに意思表示をすることもままならない状態であった。数回通ううちに、4 年間不登校状態だった子が、帰り際、笑顔でバイバイと手を振ってくれるようになった。 言葉でのコミュニケーションが難しい状態で、反応が薄く、戸惑いも見られたため、「もしかしたらどう言語化していいか分からぬのではないか」と考え、アンケートを作成して、一人ひとりの考え方や現状を把握するように努めた。そうしたことでの月曜日が楽しみになった」「月曜は起きられるようになった」とアンケートに記入してもらえた。 高校進学について、「不登校だから通信制にしかいけない」と諦めていた子が、普通高校への受験を希望するようになり、さらには高校卒業後の夢を話してくれるまでに変化した。 実施回数 17 回（自分たちで調理、食事、片付けしたのも 17 回）、保護者相談 5 回、参加者数 3 人（延べ 41 人）、連携先 7箇所、中学生たちが出会った大人の人数 16 人、体験活動回数（他団体と連携・外出した回数）7 回

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 まなびのたねネットワーク
代表者	伊勢 みゆき
設立年月日	2007 年 2 月 1 日（2008 年 8 月 5 日に法人化）
スタッフ数	4 人
団体住所	仙台市若林区卸町 2 丁目 9-1
ウェブサイト	https://www.facebook.com/profile.php?id=100083482984967
メッセージ	誰かといても孤独感を抱えるこどもたちは大勢います。『誰かが誰かの心の安全基地』になれる温かい関係が、明日を生きることにつながる「オープンダイアログ」というフィンランドの取組をご存知でしょうか。食卓の団欒は、オープンダイアログのような効果があると私は信じて活動しています。全国に同志が増えたら嬉しいです ^ ^

団体名：NPO 法人 キンダーフォーラム

取組地域：宮城県 富谷市

取組名：「世代を超えたクリスマスパーティー」プロジェクト

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★	交流の場の提供		居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

☆	多世代	★	こども・若者	中高年者	高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
	子育て世帯		ひとり親世帯		単身世帯	☆ 不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援

(1) 取組の内容

目的	富谷市ではコミュニティの希薄化が懸念されている。特にこどもと高齢者の関わりが十分でないと考え、両者の交流が生まれるイベントの開催を目指した。一過性のイベントではコミュニティは生まれないため、今回の活動はあくまでこどもと高齢者が関わるひとつのきっかけと位置づけ、今後も継続的に参加したいと思ってもらえるよう心掛けた。
対象とした人	本事業の主な対象は地域に住んでいるこどもとした。また、こどもたちが多世代交流を経験できるように、富谷市の大人や高齢者に対してもアプローチを行った。
内容	8月-10月：富谷市教育委員会からの後援取得、11月開催予定のワークショップの準備（チラシ作成・配布、オンライン会場づくりのための下準備）、加美農業高校との連携調整 11月：マイクラフトを利用したオンライン会場づくりワークショップの開催、12月開催予定のクリスマスパーティーの準備・コンテンツ検討、地区住民のサポート依頼 12月：クリスマスパーティーチラシ配布、クリスマスパーティー準備のためのワークショップ、クリスマスパーティー開催（マイクラワークショップ（マイクラフトで作った建物を3Dプリンターで実物化）、寄せ植え体験（加美農業高校）、餅つき＆たこ焼きづくり＆ラジコン体験（市民ボランティアサポート）、bingo大会） 1月：仙台管内地方青年文化祭（本取組の活動報告、マイクラフト内でのクリスマスパーティー会場探検）

(2) 取組の成果

連携した団体	富谷市教育委員会（チラシの学校配布）、加美農業高校（メンバーが本取組前から継続的に教育版マイクラフトを活用した授業のサポート、クリスマスパーティーで参加者が体験した寄せ植えづくりの運営、bingo大会の景品提供）、西成田コミュニティセンター（会場提供）、富谷市内のお店・飲食店（チラシの設置協力）等
対象とした人とつながるために行った工夫	本取組のメインターゲットはこどもであったため、確実にリーチできる学校にチラシを配布した。学校にチラシを配布することで、こどもだけでなく、保護者もチラシを目にすることが期待される。こどもやその家族をターゲットとした取組を実施するうえで、学校でのチラシ配布は非常に有効な手段であると考える。 クリスマスパーティー会場周辺は高齢化率が高いことから、SNS等での情報発信は周知に有効でないと考え、直接住宅へ伺ってチラシを手渡した。
定性的な成果 定量的な成果	クリスマスパーティーには家族で参加する方が大半を占めていた。餅つきや寄せ植え等、家族と一緒に取り組むワークショップが開催されていたため、家族間での交流が促進されていた。また、運営メンバーは高校生や大学生といった若者から年配の方まで幅広い年代で構成されていたため、様々な年代の方と交流できた点も来場者には高く評価されていた。加えて、複数のワークショップを開催していたことが好評であった。 本取組の主要なターゲットであったこどもたちにとっては普段体験できないことに触れる機会となった。当日の参加者の中には、ある特定のブースに長時間熱中している子もいたが、このことは保護者やこども達自身も気付いていなかった興味・関心を発掘できたことの表れであると考える。 また、同じ小学校に通っているこども同士がたまたまイベント会場で一緒になり、協力しながら餅つきをする様子や保護者同士が談笑する様子も見られた。参加者に実施したアンケートに寄せられた感想からは、年齢の垣根を超えた交流が本取組で生まれたこともわかった。本取組によって、既存の横のつながりに加え、多世代の縦のつながりを生むことができたと言える。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	NPO 法人 キンダーフォーラム
代表者	三國 陸真
設立年月日	2024 年 7 月 28 日
スタッフ数	2 人
団体住所	宮城県富谷市西成田追分 56
ウェブサイト	https://kinderforum.org/
メッセージ	来年度はこどもを中心としたまちづくりを促進するこどもファンド事業を開始し、こども起点でまちづくりが推進されることで大人や高齢者もまちづくりに参加し、多世代が関わりあう社会の実現に貢献をしてまいります。「こどもファンドに興味関心がある」、「地域でこどもファンドを実施してみたい」という方がいらっしゃせひお声掛けください！

団体名：一般社団法人 WATALIS

取組地域：宮城県 亘理町

取組名：竹林のアップサイクルによる心をつなぐ地域共生コミュニティ創り

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★ 交流の場の提供		居場所づくり	
食を通じたつながり		働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
買い物支援や移動支援サービスの提供	☆	空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

多世代	こども・若者	☆	中高年者	★ 高齢者	☆ 障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	☆	単身世帯	不登校の児童生徒	☆ ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	担い手不足により耕作されない遊休農地と竹が繁茂する里山を活用し、孤立しがちな高齢者をはじめとした多様な人々を対象として、地域の自然環境について学び景観維持と環境保全を促進するための実践活動を行う。交流と地域貢献の取組を通して、多様な構成員が職業や世代を超えてつながる新たな地域コミュニティを創る。
対象とした人	独居及び夫婦のみ世帯の高齢者、利用事業所や施設外において地域住民と交流する機会が限られた障害者に加えて、今年度は子育て中の主婦や学生等も孤立しがちな人たちとして対象に加えた。
内容	これまで取り組んできた遊休農地でのミツバチをテーマとした交流活動を基盤として、フィールドを周辺の里山にも拡大した。孤立しがちな人達が気軽に交流しながら地域復興と環境保全に貢献できる「人や自然とつながる学びと実践の体験プログラム」の一環として、竹を切り出し、竹炭にして遊休農地の資材として地域内で循環させる「地域資源のアップサイクル」を行い、多様な人が集いつながる場を提供しながら『亘理の豊かな自然と調和し共生する新たな地域コミュニティ』を創る。 具体的な活動として、体験プログラム(延べ 14 回、121 人参加、「蜜源マップ」500 部製作)、ミツバチや花の世話と竹林整備活動(延べ 75 回実施、延べ 199 人参加、予定 36 回より大幅増)、アンケートヒアリング調査、情報発信(参加者募集チラシ 500 部配布、SNS やホームページにも掲載)を行った。

(2) 取組の成果

連携した団体	<連携団体> 7団体 うち新規連携 2団体／<視察受け入れ等による関わりの拡大> 3件
協力いただいた団体	<活動に使用する資材（レンゲの種）提供> 1団体／<地域内企業からの活動への参加> 2企業
対象とした人とつながるために行った工夫	<ul style="list-style-type: none"> 孤独・孤立防止を目的としながらも、活動成果が遊休農地の活用や景観維持、里山の荒廃防止等の地域課題解決につながっていることを意識できるプログラムとすることで、参加者の活動意欲を高めた。 竹林を活用した「地域資源のアップサイクル」を通して、被災地に暮らす孤独感や様々な課題を抱えた人々が地域復興と環境保全の担い手となることを目指した。 職業や世代にとらわれず様々な人に参加を呼び掛け、日程の都合がつかない人や配慮が必要な人も共に活動できるようにするために、休日に少人数での活動を行った。
定性的な成果	参加者は 10～80 代の男女延べ 320 人。昨年度 303 人と比べて増加し男女差の偏りも減少した。世代や性別を越えた地域住民が交流することができた。
定量的な成果	<ul style="list-style-type: none"> すべての活動において 50 代の参加者が多い。有職者や家族と同居している等、一見して孤立しているように見えないものの、職場や地域内での人付き合い等でストレスを抱えているという声が聞かれた。 50～70 代男性は、少人数での活動を好んで参加していた。継続参加者が多く、関係が深まっている。 女性は平日、男性は休日の参加が多く、同じ内容の活動を平日と週末に実施する等の工夫が必要か。 ヒアリングによる調査では、全員が「参加してよかったです」「他の参加者と交流できた」という回答であった。 今後の活動継続を望む声が聞かれるようになった。他市町村の竹林伐採プロジェクトの見学に赴く等、地域課題解決に取り組もうとする意欲が感じられるようになった。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	一般社団法人 WATALIS
代表者	代表理事 引地 恵
設立年月日	2013 年 4 月 3 日
スタッフ数	常勤役員 2 人、非常勤役員 1 人、アルバイト 1 人
団体住所	宮城県亘理郡亘理町字中町 22 番地
ウェブサイト	http://watalis.jp/
メッセージ	これからの地域コミュニティ形成において、人ととの深いつながりを醸成していくことが重要な視点だと考えている。当法人としては、「孤独・孤立防止×利活用が困難な地域資源のアップサイクル」という 2 つの課題解決に貢献できるよう、相乗効果を得られるようなテーマ設定による取組を続けていきたい。

団体名：筑波大生による、みんなの食堂（つくしょく）

取組地域：茨城県 つくば市

取組名：3世代によるワークショップ・セミナー交流

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★	交流の場の提供		居場所づくり
☆	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

★ 多世代	☆ こども・若者	中高年者	☆ 高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪した者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	こども・学生・高齢者の3世代間交流を促すワークショップやセミナー等を実施すること。 現段階で我々が実施しているこども食堂はこどもと学生の交流の場になっているが、そこに高齢者を加えることで、課題となっている高齢者の孤独・孤立の解消につなげていく。
対象とした人	高齢者、地域の大学生を中心とした多様な世代の人々を対象とした。
内容	<ul style="list-style-type: none">高齢者・大学生・児童の3世代間で行うワークショップ・セミナー：地域の講師を招き、ワークショップを行うことで多世代の交流を図った。高齢者の孤独・孤立の解消はもとより、参加者全員に対してワークショップを通して良い学びを提供することができる。毎週日曜日のフリースペース開放：この活動は地域の居場所づくりを目的として行った。当初はスペース開放のみを行っていたが、活動の後お昼時にお茶をすることもできるように、ケーキセットの提供も行った。

(2) 取組の成果

連携した団体	世代間の交流の機会の創出：3世代における交流の機会を創出した。活動を通じて得たつながりをもとに、活動日以外での個々人間の交流を創出するきっかけづくりに貢献した。
協力いただいた団体	
対象とした人とつながるために行った工夫	<ul style="list-style-type: none"> SNSによる宣伝活動：主にインスタグラムを中心にフリースペース実施のお知らせとワークショップの宣伝等を行った。 チラシの作成・配布：2～3か月にわたり地域にチラシを配布した。
定性的な成果 定量的な成果	<p>本事業は世代間の交流を促進し、地域社会の結びつきを強める効果があった。具体的な効果は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークショップを通じた知識の共有：単一世代では得ることができない知識の共有の時間を創出した。 社会的なつながりの強化：ワークショップや毎週のフリースペース開放を通じて、高齢者と大学生等の異なる世代が自然に交流する機会が増えた。 知識や経験の共有：地域の講師を招いたワークショップでは、大学生が高齢者から地域の歴史や伝統を学び、高齢者が大学生からデジタル技術を学ぶ等、世代を超えた相互学習が生まれた。 地域コミュニティの活性化：フリースペースが気軽に集まる場となり、特定の年齢層に偏らず、さまざまな世代が関わることで、地域イベントや活動への参加意欲が高まった。 持続可能な交流の仕組み：イベントをきっかけに知り合った参加者同士が、事業終了後も多世代で関わり合い、助け合う環境が築かれた。

(3) 取組の様子

	
---	--

団体概要

団体名	筑波大生による、みんなの食堂（つくしょく）
代表者	渡辺 敏孝
設立年月日	2023年6月
スタッフ数	15人
団体住所	茨城県つくば市春日3-1-7 1F
ウェブサイト	—
メッセージ	多世代交流を目的とした活動は、地域に新たなつながりを生み、支え合いの輪を広げる大きな力を持っています。これからも地域の皆さんと協力し、より多くの方々が気軽に参加できる環境を整え、持続可能な活動へと発展させていきたいと考えています。お互いの経験を共有しながら、より豊かな地域づくりを目指しましょう。

団体名：特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり市民工房

取組地域：栃木県 宇都宮市、那須塩原市

取組名：当事者との連携・協働で進める、栃木の孤独・孤立対策

取組の種類

1. つながりの場づくり			
★	交流の場の提供		居場所づくり
☆	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築		アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供	☆	空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
☆	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

★ 多世代	☆ こども・若者	☆ 中高年者	☆ 高齢者	障害者	外国人	被災者	犯罪をした者等	LGBTQ
子育て世帯	ひとり親世帯	単身世帯	不登校の児童生徒	ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	就労前の大学生を含む若者や幅広い年代の女性、就労を終えたリタイア組等が地域の活動に参加することで、孤独・孤立の解消に寄与できる取組を目指した。孤独・孤立に陥りやすい当事者が、地域における様々な活動に参加することで自分たちの役割に気づく支援をすることを目的とする。
対象とした人	①就労前の大学生を含む若者 ②就労を終えたリタイア組 ③幅広い年代の女性
内容	①学生サークルと地域コミュニティのつながり創出：宇都宮市の自治会と連携してスマホ教室を開催し、高齢者を中心とした自治会員と交流しながら、地域の中で自分たちにできる役割があることを実感する。 ②リタイア組を主な対象とした里山整備事業：就労を終えたリタイア組を主な対象とし、荒廃が進む里山整備事業に参加することで活動の意義を実感し、地域の活動の関係人口となる。 ③地元女性グループによる青空食堂事業：②の活動を行う地元の女性たちが、参加者（関係人口）への食事を提供して交流を深める取組（青空食堂）を行い、自らの生きがいや、地域での役割を実感する。

(2) 取組の成果

連携した団体	①宇都宮大学の学生サークルとつながり、スマート教室を企画した。
協力いただいた団体	②那須塩原市塩原地区で地域の活性化に取り組む団体と連携し、里山整備を実施した。 ③活動地域の女性たちが「何かできることがないか」と団体関係者らと話し合い、青空食堂を開始した。
対象とした人とつながるために行った工夫	①学生サークルと地域コミュニティのつながり創出：自治会員は当初直接の対象ではなかったが、教室参加者がほぼ高齢者であったことから、同じ自治会内の知り合いであってもなかなか会う機会がない人同士で話ができる時間になっていた。また、離れていて会うことが難しい友人、知人らとLINEでつながりたいという希望を叶える場にもなっていた等、つながりを創出していることを実感できた。 ②リタイア組を主な対象とした里山整備事業：当法人が運営しているまちづくりセンターにボランティア希望で来られた相談者が活動に参加してくれたり、当法人の会員への広報誌がきっかけで参加してくれた。活動を継続してその場を維持すること、さらに紙媒体やSNSを通じた情報発信をすることが大切であった。
定性的な成果	本事業の活動により、自らの生きがいや地域での役割を実感する機会の創出、里山（自然環境）への理解を深める機会の創出、日頃の困りごと等、日常的な会話を通じた交流の機会の創出に至った。
定量的な成果	他、定量的効果は以下の通りである。 ①学生サークルと地域コミュニティのつながり創出： 1回目（宇都宮市陽東地区）地域住民14人、学生8人、計22人参加 2回目（宇都宮市御幸地区）地域住民7人、学生5人、計12人参加 ②リタイア組を主な対象とした里山整備事業：8回実施、延べ26人参加 ③地元女性グループによる青空食堂事業：9回実施

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり市民工房
代表者	理事長 安藤 正知
設立年月日	2005年9月7日
スタッフ数	13人
団体住所	〒321-0932 栃木県宇都宮市平松本町 1131-1
ウェブサイト	https://www.utshiminkoubou.org
メッセージ	法人単体でできることには限りがあり、今回の事業はいずれも、学生団体や現場で活動している団体の連携協力のもとで実施きました。団体同士のメリットに配慮しながら、対象となる方々に有意義な事業は何かをお互いに考え、そして今できることから始めてみました。本事業での学びを踏まえ、また次のステップに進みたいと思います。

団体名：特定非営利活動法人 じゃんけんぽん

取組地域：群馬県 高崎市、前橋市等

取組名：見守り・居場所等孤独・孤立防止の活動における情報受発信の取組

取組の種類

1. つながりの場づくり			
☆ 交流の場の提供		☆ 居場所づくり	
☆ 食を通じたつながり		働くことを通じたつながり	
2. 見守り・支援体制の構築			
☆ 地域の包括的見守り体制の構築		☆ アウトリー型支援の推進	
3. 情報提供・相談支援			
☆ ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築	
★ 情報発信の充実		☆ SNS 等を活用した相談支援	
4. 地域課題解決型の取組			
☆ 買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備	
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
☆ 地域の NPO 等への支援		☆ 官民連携プラットフォームの構築	

取組の対象

★ 多世代	☆ こども・若者	☆ 中高年者	☆ 高齢者	☆ 障害者	外国人	☆ 被災者	☆ 犯罪をした者等	☆ LGBTQ
☆ 子育て世帯	☆ ひとり親世帯	☆ 単身世帯	☆ 不登校の児童生徒	☆ ひきこもりの状態にある人	☆ 生活困窮状態の人	☆ 薬物依存等を有する人		支援者支援

(1) 取組の内容

目的	活動を広く世間に知つてもらうことで必要な人に必要な情報が届き、直接的な相談や居場所の利用等、何らかの支援につながることや、地域で同種の活動をしてみようとする人が現れることを目指す。加えて、車社会の群馬において、ラジオから流れるメッセージが必要な人に届き孤独・孤立防止につながるのかを検証する。
対象とした人	特定の属性にとらわれず地域に住むあらゆる人を対象とした。
内容	日常的に地域の中で誰かとつながることや、ゆるく話を聞いてもらうことで本人や周囲が困難の本質に気づき、適切な支援や環境につながる可能性があるが、相談できる場所があることを知らない人も多い。そこで、情報発信をはじめとする様々な取組を実施した。 <ul style="list-style-type: none">FM ぐんまにてメッセージを配信公式ホームページに孤独・孤立対策に関する専用ページを開設公式 LINE の開始と問い合わせフォームの運用朝ごはん会、お話し会の開催

(2) 取組の成果

連携した団体	<ul style="list-style-type: none"> FM ぐんま：メッセージを流すことで法人の理念や活動を共有
協力いただいた団体	<ul style="list-style-type: none"> 群馬県孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム：幹事団体として参加 ぐんまの子ども・若者支援ネットワーク：2か月に1回の頻度で会員団体が集合し情報交換を実施
対象とした人とつながるために行った工夫	<ul style="list-style-type: none"> ラジオメッセージ：ラジオで流すメッセージが、「じゃんけんぽんの CM になりすぎないことを意識した。「不安になつたら誰かとつながりたくなるのはみんな一緒」、「寂しい・困った・不安と一緒に考える場所がある」、「ひとりで頑張らないで」、等のメッセージを届けた。 焦らずゆっくり話を聞く：大変な事が様々に重なり合うことでがんじがらめの状態になっている人が、ゆっくり話をしながら状況や気持ちの整理をすることにより、落ち着いて今の自分にあるプラスの要素に気づくことができる。
定性的な成果	<ul style="list-style-type: none"> ラジオメッセージ：放送回数 41 回、生出演 2 回
定量的な成果	<p>「ラジオを聞いて電話しました」という直接の相談 3 件</p> <p>「ラジオメッセージを聞いたよ」と伝えてくれた人 多数（行政の福祉関係の担当者、会議等で顔を合わせた福祉関係者・社協の職員、「近隣大家族」に来た地域の利用者、地域包括支援センターの職員、地域の商店の人、学校関係者、職員のママ友たち、職業体験学習に来た中学生等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 公式 LINE：実運用期間約 3 ヶ月、メニューアクセス 235 件、相談問い合わせフォームアクセス 35 件 朝ごはん会：計 52 回実施、参加者 184 人 定性的成果：ラジオから聞こえた声に安心して相談の電話をかけることができた、朝ごはん会によりこどもたちの楽しみ増加や時間のメリハリが付いた等の効果が得られた。前向きな気持ちになり、「電車とバスを乗り継いでじゃんけんぽんに来てみることを一つの目標とする」と言ってくれた人もいた。

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	特定非営利活動法人 じゃんけんぽん
代表者	理事長 井上 謙一
設立年月日	1999 年 11 月
スタッフ数	192 人
団体住所	群馬県高崎市棟高町 954-8
ウェブサイト	https://www.jankenpon.jp/
メッセージ	私たちは、今回の事業で得た経験を活かし、さまざまな活動とともに、適切かつ必要な人に届く情報を発信し続けながら、こどもから高齢者まで地域で暮らす人たちに寄り添えるよう前進を続けていくことを約束します。地域に二ヶ所があり、「ほっとけない」という思いと支える覚悟がある方々と、共に頑張っていけることを願っています。

団体名：一般社団法人 オープンコミュニティおいでよハウス

取組地域：埼玉県 飯能市と周辺市町村

取組名：対話をベースとした居場所とアウトリーチによる当事者主体の包括的サポート

取組の種類

1. つながりの場づくり			
	交流の場の提供	☆	居場所づくり
	食を通じたつながり		働くことを通じたつながり
2. 見守り・支援体制の構築			
	地域の包括的見守り体制の構築	★	アウトリーチ型支援の推進
3. 情報提供・相談支援			
	ワンストップ相談窓口の設置		支援情報のポータルサイト構築
	情報発信の充実		SNS 等を活用した相談支援
4. 地域課題解決型の取組			
	買い物支援や移動支援サービスの提供		空き家等を活用した地域交流拠点の整備
5. NPO 等の活動支援・連携強化			
	地域の NPO 等への支援		官民連携プラットフォームの構築

取組の対象

☆ 多世代	☆ こども・若者	中高年者	高齢者	☆ 障害者	外国人	被災者	犯罪した者等	LGBTQ
子育て世帯	☆ ひとり親世帯	单身世帯	☆ 不登校の児童生徒	★ ひきこもりの状態にある人	生活困窮状態の人	薬物依存等を有する人	支援者支援	

(1) 取組の内容

目的	居場所と訪問（アウトリーチ）を組み合わせることによって、日常生活のレベルで本人の声を直接聞くことができる。それにより本人に安心感が生まれ、気持ちの整理ができ、具体的な方向性の選択ができるようになることを目的とした。
対象とした人	原則、誰でも対象とするとしたが、特に不登校やひきこもり状態の本人と家族、病院や他機関につながってはいるが孤独・孤立状態の方々、療養中や施設入所中だが地域生活に参加したいと願っている方々、居場所を利用しているが状況によっては地域生活の場に行きたいと思っている方々等を対象とした。
内容	居場所のみの利用、居場所とアウトリーチの利用、アウトリーチのみの利用の 3 パターンを臨機応変に展開した。具体的な事例として、「入院中で地域生活を希望しているが支援者から親身な関わりを持ってもらえない」ため面会という形で訪問し対話したケースでは、本人が社会にほとんど出られていなかったことから、病院の許可を得て居場所を体験し地域生活に向けて一歩前進した。ひきこもり状態の当事者からの依頼で訪問したケースでは、その後居場所を利用するようになり、現在は就労を目指そうとしている。

(2) 取組の成果

連携した団体	アウトリーチを行ったことによって、生活課題がリアルに把握できたと同時に、これまで多くの機関が本人と関わってきたこともわかった。行政の各機関、地域の障害者支援施設の支援者と本人を中心とした対話の場が持たれ、具体的な行動に進むことができた。
対象とした人とつながるために行った工夫	対象者との関係性を構築する際、本人の人生を尊重し、お互いがフラットな関係であることを大切にした。
定性的な成果 定量的な成果	<p>(定性的成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ひきこもり状態から、アウトリーチをした後、本事業所の居場所に通うことになった。その後、就労を考えるようになった。 アウトリーチは実現しなかったが、代わりに家族が居場所に来所し交流を深めることができた。その後、本人は就労を果たした。 <p>(定量的成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組の実施回数と参加者数 居場所：75回 429人（延べ）、アウトリーチ：29回 扱い手の数：6人 新規参加者の数：45人（実数）、連携先の数：10カ所 必要な社会資源につながったケース：6ケース

(3) 取組の様子



団体概要

団体名	一般社団法人 オープンコミュニティおいでよハウス
代表者	藤島 薫
設立年月日	2022年4月18日
スタッフ数	理事4人、監事1人、ボランティア1人
団体住所	埼玉県飯能市稻荷町9-15 フォーブル岩沢102
ウェブサイト	https://www.open-community-oideyo-house.com/
メッセージ	孤独・孤立は誰もが経験することであって、とても個人的なことであると同時に社会と切り離せない課題だと思う。孤独・孤立している人とそうではない人との区別を分けることのない姿勢を持つ団体や支援者が増えることを願っている。